



山盛りの雨が降っています。

七夕の夜が雨だったらどうしよう?!と毎年思います。
いい天気であってほしいな!と願います。

残念ながら当日が雨だと、「雨空の上で 遂にきくと
二人の静かな逢瀬を楽しんでいるのだろう」と一人
うなずき納得します。

「私たち一人ひとりの 短冊にしたためた「願い」は、
天空に届くのかしら?」と少し心配にもなりますが仕方が
ありません。

ある朝 一人の赤バッチさんが鳥小屋の前に座り二羽の
黄色のインコに向かって声をかけていました。

「だいじょうぶだよ」と、やさしい声かけです。
けんかましていたという二羽のことが気になりずと見守って
いて、穏やかになったので、ほっとして声をかけたようです。

願いをかける、願い事・・・は、七夕ばかりでなく日常の
気づかないで通り過ぎてしまいがちなここそこで 結核に
静かに生まれ、温められているのでしょう。

誰かに向けてかけられた あたたかい願いに、天空に輝く
無数の星のどこかに、小さな花がぽっと咲いたような瞬間
に立ち合うような気分が湧いてきます。

てるてる坊主をつるして楽しみに お出かけや催しを待つ
ように、7月にやってくるひとつひとつ夏のはじまりのドラマに
向かっていきたいと思えます。

6月のテーマ「あれ、なんだ(子ども)・みつける(大人)」を継続
しつつ、7月「きもちいいわ(子ども)・ここちよく(大人)」へと移行
していきます。

みんなで「誰かへ・何かへ」の願いを心に持ちながら、
うれしい七夕・わくわくのなつまつり・冒険のなつやすみを
迎えられる...と願っています。

園長 升光 泰雄